

古事類苑

人部二十六

離別

離別ニハ、生別アリ、死別アリ、生別ニシテ死別ヲ兼ヌルアリテ一ナラズ、凡ソ離別ヲ悲ムハ人情ノ常ニシテ、古來別ニ臨ミテ互ニ相往來シ、詩ヲ賦シ、歌ヲ詠ジ、或ハ物ヲ贈リテ以テ惜別ノ情ヲ表セシモノモ亦甚ダ多カラズトセズ、而シテ此篇ハ性命篇、行旅篇等ニ關聯スル所アレバ、宜シク參照スベシ、

名稱

〔類聚名義抄言〕古穴反

〔伊呂波字類抄〕和別ワカレ、離トメ同上

〔倭訓栞和編四十二〕和わかれ 分別をよめり、神代口訣に我彼の義といへり、歌に戀の別あり、旅の別あり、哀の別あり、唯別路といへば旅にきこゆ、新勅撰集にたゞ一首戀によめり、

〔古今和歌集八離別〕あふさかにて、人をわかれける時によめる、
なにはのよろづを

相坂の關しまさしき物ならばあかずわかる、君をとゞめよ

〔松の落葉一〕人をわかる、女のあへる、

ふるき歌集の詞がきに、人をわかるといへるは、みづからは、とゞまりて、人のわかれゆくをり
のことなり、さるからに人にといはず、古今集に、あふ坂にて人をわかれる時によめる、あふ
坂の關しまさしきものならばあかずわかる、君をとゞめよ、又おとは山のほとりにて、人を